

修士論文（要旨）

2021年1月

メンタルヘルス不調者のリワークプログラム参加時の  
内田クレペリン検査の特徴について

指導 種市 康太郎 教授

心理学研究科  
臨床心理学専攻

219J4007

平野 那奈

Master's Thesis(Abstract)  
January 2021

Characteristics of Uchida's Creperin Test at the Beginning of the Re-work  
Program in Employees with Mental Health Problems

Nana Hirano  
219J4007  
Master's Program in Clinical Psychology  
Graduate School of Psychology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Kotaro Taneichi

## 目次

第1章 研究背景.....	1
第2章 目的と意義.....	1
第3章 方法.....	1
3.1 期間 .....	1
3.2 対象 .....	1
3.3 UK 法指標.....	1
3.4 分析方法 .....	2
第4章 結果.....	2
第5章 考察.....	2

## 参考文献

## 第1章 研究背景

近年、企業におけるメンタルヘルス不調者や休業者が増加している。また、休業期間の長期化や休職や復職を繰り返す困難な事例が多くなっており、メンタルヘルス問題への対策が模索されている状況である（副田, 2016; 川越・黒川, 2015）。

厚生労働省では、「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」において上記で述べたようなメンタルヘルス対策の重要性について言及しており、労働者の心の健康問題の予防から円滑な職場復帰支援に至るまで、適切な対策が必要であるとしている。休業者への支援の代表的な取り組みとして、リワークプログラム（職場復帰支援）が注目され、その活用が広がっている（川崎, 2016; 上田・中富, 2018）。リワークプログラムでは、メンタルヘルス疾患で休職中の方の復職準備性を高め、復職後の就労継続と再発予防を目指したプログラムを提供している（有馬, 2010; 上田・中富, 2018）。

先行研究から、就労支援のみならずリワークプログラムにおいて内田クレペリン検査の活用が期待されており、有効な指標となりうることは分かっている。しかしその一方で、量的な研究はあまり行われておらず、基準となるデータがまだ得られていないことが現状であり、データの蓄積が不十分であることが課題となっている（川越・黒川, 2015; 眞鍋ら, 2014）。また、リワークプログラム参加時の特徴や、作業量、作業特性について十分な検討が行われていない。

## 第2章 目的と意義

本研究ではメンタルヘルス不調者を対象に、リワーク開始時に内田クレペリン検査を実施し、開始時の結果を分析することで、リワークプログラムメンタルへ参加時のメンタルヘルス不調者の内田クレペリン検査の結果の特徴について明らかにすることを目的とする。リワークプログラム開始時の内田クレペリン検査の特徴を明らかにし、その結果が蓄積され基準となるデータを得られれば、他機関でのリワークプログラム開始時の内田クレペリン検査と比較を可能にするための標準的なデータの提供を行えるだろう。

## 第3章 方法

### 3.1 期間

研究期間は、研究倫理委員会承認後の2020年7月から2021年12月までであった。

### 3.2 対象

メンタルヘルス不調が原因で休職しており、研究協力機関が実施しているリワークプログラムの参加者の中から、リワークプログラム開始時に内田クレペリン検査を実施することが出来た22歳～60歳の男女52名を対象とした。

研究対象の調査は、研究倫理承認後から10月末にかけて実施した。なお、それ以前に研究協力機関において調査対象者から研究に関する同意が得られたデータについても、研究協力機関の承諾のもと、データを使用した。

### 3.3 UK法指標

今回の分析で使用するために対象者から収集したUK法の指標は、平均作業量、前期平均

作業量, 後期平均作業量, 後期上回り率, 誤答数, 訂正数, 行飛ばし数, PF 値の 8 つであった。これらの指標を, 各利用者の UK 法結果から算出し, 分析に用いた。また, UK 法の実施に当たって, 株式会社 日本・精神技術研究所が発行している検査用紙を使用した。

### 3.4 分析方法

研究協力機関において, 研究への同意が得られた, メンタルヘルス不調が原因で休職中であり, リワークプログラムに参加する者を対象として, リワークプログラム開始時に内田クレペリン検査を実施した UK 法のデータを分析する。また, 標準化された一般群, 樺沢 (2020) の研究で用いられたデータについても今回の分析の比較に用いた。

## 第4章 結果

本研究は 52 名, 樺沢 (2020) は 42 名, 一般成人群は 988 名のデータを分析対象とした。リワーク参加群における診断名は, うつ病が 16 名, 適応障害が 14 名, うつ状態(抑うつ状態)が 9 名, 双極性障害(双極性感情障害)が 4 名, その他が 9 名であった。

リワークプログラム参加者と標準化された一般群の比較のため, UK 法の各指標に対応のない  $t$  検定を行った結果, 「後期上回り率」「特定行訂正数」にのみ有意差が認められ, 「後期上回り率」は, リワークプログラム参加群において有意に高いことが明らかとなった。

相関係数においては, 平均作業量が高いほど, 前期・後期ともに平均作業量が高い傾向であった。また, リワーク在席日数が高いほど非定型性が高くなる傾向が見られた。さらに, 特定行誤答数が多いほど各作業量が高い傾向にあり, 行飛ばし数が多いほど特定行訂正数も多い傾向にあった。

分散分析においては, リワーク参加群が一般群に比べ, 後期上回り率が有意に高い傾向にあり, 特定行訂正数についてはリワーク参加群が一般群に比べ有意に少ない傾向であった。

## 第5章 考察

本研究ではメンタルヘルス不調者を対象に, リワーク開始時に内田クレペリン検査を実施し, 開始時の結果を分析することで, リワークプログラムの効果およびメンタルヘルス不調者の内田クレペリン検査の結果の特徴について明らかにすることを目的として研究を行った。今回の結果から, リワークプログラム参加群は一般群よりも後期上回り率が高い傾向にあった。この点は調査対象者のクリニックの受診者の特徴が現れていることに加え, 本研究の調査対象者の一部においてはリワークプログラムプログラム時点で症状がある程度は回復しており, 一般成人との有意な差が認められなかった可能性が考えられる。

相関については, PF 値とリワークプログラム参加日数との間に, 有意な正の相関が見られた。PF 値は定型傾向からのズレを表していることから, 非定型傾向があるとリワークプログラム参加日数が高いという可能性を検討できるだろう。

今後は, 開始時と終了時のデータを比較し, 復職準備性との関連性を検討することが課題である。

## 参考文献

- 有馬 秀晃 (2010). 職場復帰をいかに支えるか—リワークプログラムを通じた復職支援の取り組み— 日本労働研究雑誌, 52, 74-85
- 五十嵐 良雄 (2012). わが国における復職支援の現状と課題 心身医学, 52, 726-733
- 石井 隆之・並木 友里・種市 康太郎 (2019). 内田クレペリン検査による職場復帰時の特徴の分析および復職判断指標の可能性に関する検討 (1) 第26回日本産業精神保健学会ポスター発表.
- 石川 健太・蔵屋 鉄平・有馬 秀晃・大久保 街亜 (2018). 休職者に対する復職支援の現状と課題—自閉スペクトラム障害の特徴を有した利用者への支援をめぐって— 専修人間科学論集, 8, 37-42
- 樺沢 大地 (2020). 内田クレペリン精神検査によるリワークプログラムの効果の検証 桜美林大学大学院修士論文
- 川越 隆・黒川 淳一 (2015). メンタルヘルス不調者の復帰支援における内田クレペリン精神検査の活用 内田クレペリン研究, 4, 15-20
- 川越 隆 (2019). メンタルヘルス不調者の復帰支援における内田クレペリン精神検査の活用—人柄累計判定を中心として— 内田クレペリン精神検査研究会誌, 8, 8-13
- 川崎 舞子 (2016). 職場復帰支援の実践的研究:休業中の心理プロセスに着目した支援プログラムの開発 東京大学学術機関リポジトリ
- 川本 絵理・塩崎 一昌 (2011). 職場復帰支援の連携の取り組みの現状について—横浜リワーク支援フォーラムの事例から— 産業保健, 21, 10-11
- 眞鍋 泰司・堀 義治・金 美玲・岩清水 薫・黒川 淳一 (2015). リワークにおける内田クレペリン精神検査 (その1) 内田クレペリン精神検査研究会誌, 4, 21-25
- 副田 秀二 (2016). 復職支援 (リワーク) プログラム利用者の特徴と復職の転帰 産業医科大学雑誌, 38, 47-51
- 上田 和樹・中富 康仁 (2018). 復職支援プログラム SPICE フォローアッププログラムの取り組み 関西福祉科学大学 EAP 研究所紀要, 12, 37-39